

令和4年度 中土佐町立大野見小学校 学校評価書

大野見小学校長 楳佐古 直広

1 自己評価 (A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を達成できなかった)

学校教育目標		未来に向かって 共に鍛えよう 大野見の子ども	
研究主題		生き生きと学び合い主体的に活動する児童の育成 ~のびのびと自由に表現できる国語科の学習を通して~	
項目	重点項目	取組	取組状況 (○十分達成、△達成、△十分でない)
知	学力向上のための組織的な取組	①横式指導を充実させ、学習リーダーを中心に主体的、対話的な深い学びの実現を目指す。また、読書への関心を高める取り組みとして、朝読書、学級文庫の充実、児童主体の活動の充実を行う。	・完全複式学級として、学習リーダーを中心に主体的な学びを行っている。算数科では、スタンダードによる学習を継続し、国語科においても主体的・対話的な学びの実現を目指して取り組むことができた。読書への関心を高める取り組みとして、学期ごとに移動図書を活用し、学級文庫の充実を図ることができた。また、地域の図書館を積極的に活用できた。読書への関心が高まった児童もいるが学校評価アンケートによる「読書が好きな」肯定的評価は、73%であった。
		②朝自習は国語科、ニムスタイムは算数科の基礎・基本の定着を図る。また、「分かる」「できる」授業づくりのために、ユニバーサルデザインの3重点事項(環境の工夫、情報伝達の工夫、活動内容の工夫)を位置づける。さらに、ICTを効果的に活用したための組織的な取組指導を行う。	○中土佐検定においては、年間を通して全員が合格し、基礎学力の定着を図ることができた。常にユニバーサルの視点意識し、授業を行ってきた。生活アンケートにおける児童の肯定的評価「授業が分かる」97.6%、学校評価アンケートにおける肯定的評価「進んで学習」96.2%「毎日勉強」92.3%であった。ICTの活用については、効果的な活用できるように研究を進めている。放課後等に個別に指導することで基礎学力の定着を図ることができている。
		③高知新聞「読もっか」に投稿する。また、授業の中で、積極的に活用し、新聞づくりへの関心を深める。	・地域新聞には5・6年生で年間2回取り組み、学校新聞づくりコンクールには、6年生が応募した。1・2年生は、国語科で学習したことを新聞にまとめることで、新聞づくりへの興味・関心を深めることができた。高知新聞「読もっか」にも投稿することができた。
		④総合的な学習の時間において、課題を発見し問題を解決していく探究的な活動を積極的に進行。	○3・4年生は、「ふるさとの大野見の自然と生きる」、5・6年生は「大野見から未来へ～生産加工～」をテーマに地域の方の積極的な連携のもと年間計画に沿って探求的・発展的な学習が行うことができた。
		⑤ICT機器を活用した効果的な指導をし、児童にICT機器の活用を学ばせたりする。	・ICT(クロームブック)を活用した授業提案ができた。様々な教科で各学年においてICTを活用した授業を行い、効果的な活用法について考え取り組むことができた。
徳	道徳教育の推進	①道徳の授業後には、板書を撮り、道徳列車として掲示をしていく。板書を見合ったり、他学年の授業を参観したりして、授業改善に生かす。授業力チェックシートを活用し、授業改善を図る。	○道徳授業の板書を記録し、掲示することや他の学年の授業を参観することで、授業改善に活かすことができた。道徳授業チェックシート「全体を通して自分の考えが深まっていく授業」の肯定的評価が96%、「自分のことを振り返って考えられる質問があった」が92%だった。
		②児童の良さを認め、褒める。	△児童一人ひとりに寄り添い、良いところに目を向け褒めることを意識し、「いいこと見つけのわ」など自己肯定感を高める取り組みを行ってきたが、道徳意識調査「自分には良いところがある」の肯定的評価は昨年度より下がり、79%であった。
		③人権道徳参観日や参観日において道徳授業の実施、学級だよりで授業内容を掲載したり「高知の道徳」を活用するなど、保護者の理解や周知を図る。	・道徳・人権参観日の参観率は47%で、昨年度よりも参観率が低かった。悪天候の為土曜日から平日に変更になったことが影響していると考えられる。道徳授業の様子を学級便りで紹介したり「高知の道徳」を活用した家庭学習を行うなど、家庭と連携し、取り組むことができた。
生徒指導の充実	④支援を要する児童に関して、共通理解をしたうえで、効果的な支援方法を探索。Q-Uアンケート結果を効果的に活用する。	○Q-Uを2回実施し、分析を行い、スクールカウンセラーのアドバイスをいただきながら共通理解を図った。クラスのごち(満足群)は88%と数値は高かったが、「学級不満足群」が4割いる。	
	⑤スクールカウンセラー来校日(火曜日)に合わせて校内支援会を実施し、情報共有し、支援方法を探索。また、事例に応じて専門機関等と交えた支援会議を行う。	○校内支援会を月1回(金曜日)定期的にも実施し、校内研・職員会・職朝で情報共有し、支援に活かすことができた。	
体	体力向上	①正しいフォームでジャックナイフストレッチを継続的に進行。	○朝の会や体育の時間などに継続して行うことができた。長座体前屈では24人中、16人において点数の上昇がみられた。
		②日体大との協定を活用した専門的指導者、また、町スポーツ振興監や中学校の先生を招いて指導力向上を図るとともに、児童の体力や技術向上を目指す。	○水泳の授業や陸上記録会の前には、町スポーツ振興監を招いて授業を行い、専門的な指導を受けることで、水泳や陸上のフォームが安定し、記録の向上、ひいては意欲の向上にもつながった。中学校の教員にスポーツテストについて動きのコツや練習方法を指導してもらったことで、立ち幅跳びでは24人中18人の記録が伸びるなど体力や技術の向上に繋がった。
		③外遊びの推奨を行う。	○登校後や休み時間には、大半の児童が外で遊んでいる。生活アンケートにおいて1日に1時間以上外遊び・運動をする児童は81%であった。
基本的な生活習慣の改善	④保小中生活部会の取組として、生活習慣調査実施と分析を行う。噛むことと歯みがきへの意識付けを行う。	・就寝時刻について、低学年で9時までに就寝している児童は30%、高学年で10時までに就寝している児童は69%であった。また、朝食後に歯みがきをすすめる児童は92%であった。	
	⑤生活部会を中心に、朝食摂取・内容についての取組を推進し、保護者への啓発を行う。	○朝食摂取率は96%。おかずのある朝ごはんを食べている児童は88%であった。	
横断	保小中連携教育	①保小中連携教育では、「望ましい生活習慣の育成」と「自分の思いを自由に表現できる」を意識した連携により教育効果を高めていくことを研究テーマとし、2部会(生活:「体」・学習:「知・徳」)で具体的取組を進める。	・生活部会では、「朝ごはんづくり」や「ステップアップ朝ごはん」「おむすびComeマラソン」などの取り組みを家庭に協力を求めている。食育の取り組みが認められ文部科学大臣表彰を受けることができた。学習部会においては、自己肯定感を高めるための取り組みを行ってきた。また、自分に自信のない児童もいるが、自分の良さや友達の良いところに気づく児童が増えてきている。
		②中学校教員の乗り入れ授業の開始(6年算数、3・4年体育・図工、5・6年図工、1・2年外国語)、保小中連携による相互交流の実施	○年間を通して、専門的な授業を受けることができ、子どもたちの学びを深めることができた。保小連携においても、プール交流、七夕交流、一日入学などを通して、連携を図ることで、児童理解に繋がった。
	不登校への総合的な対応	③常に子ども心に寄り添った対応を心がける。「この子は困った子」ではなく「何かに困っている子」の意識を持つ。	○Q-Uアンケート、学校評価アンケートの結果分析・共有を行い、「いいこと見つけのわ」を継続する。
		④ノリ・残業デー、最終退校時刻を設定し、働き方改革を意識するような校内研修を実施する。	△ノリ・残業デーとしては設定していなかったが、働き方改革を意識して業務を行うことができるようになってきているが、半数の教職員が4.5時間を超過している。
学校における改革の推進	⑤防災授業週間を活用して防災授業を確実に実施する。地震避難訓練、防災訓練、不審者対応訓練を実施する。	・年間6回の防災週間においては、計画的に防災学習を行うことができた。避難訓練は、年間5回行うことができたが、不審者訓練については、コロナ感染拡大防止のため本年度は、実施できなかった。	
	⑥地域学校協働本部を積極的に活用し、民生委員・児童委員、ヘルスメイト、社会福祉協議会、行政=危機管理室等と連携した授業や学習支援を実施する。これまで以上に地域の方に学校教育活動に参加してもらい、また、学習発表会や学校だより、郵便局への作品掲示などの場を利用して地域への発信を行う。	○地域学校協働本部活動で、学校行事や授業において、年間延べ197人のボランティアの方に関わってもらったことができた。充実した教育活動を行うことができた。学校行事や教科の学習への参加・参画、全戸への学校だよりや年間4回の郵便局への掲示などを通して、学校教育活動の様子を発信していくことができた。	
関係者評価	評価	⑦関係者評価	・今年度は、給食試食会が開催できる見込みであるので、地域の方にも参加を呼びかけたいとの取り組みも知っていただく機会とする。
		⑧関係者評価	・働き方改革については、4.5時間以内を目標に、効果的に業務が行うことができるように業務の見直しを行う。
関係者評価	評価	⑨関係者評価	・不審者訓練については、今年度は、中学校と合同で実施し、不審者侵入の避難経路の合言葉を見直し確認し、児童・教職員が速やかに避難できるように訓練する。
		⑩関係者評価	・学校評価アンケート「地域とともに活動する学校づくり」については、保護者は、9.6%が肯定的評価であった。地域の方の「地域のことを学ぶ学習の機会を多く求めている」については、10.0%が肯定的評価であった。本年度、地域学校協働本部活動においては、学校行事や教科の学習等において、年間、延べ197人の方に関わっていただくことができた。地域の方の連携を図りながら、学校教育活動を行うことができた。今後も地域に出掛ける機会を多くもち、積極的に地域の方とも関わり合いながら、学習活動を進めていきたい。

2 関係者評価 (A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を達成できなかった)

評価	評価コメント
A	子どもの数が予想していたよりも減ってきている中で、完全複式学級となり、マイナスの環境の中でも先生方の努力、学校がチームとして一丸となり取り組んできたことが分かります。これまでの教育のレベルを落とすことなく学校教育活動が行われていることが子どもたちの様子や関わりの中で感じました。これからも少人数ということをマイナスととらえるのではなく、少人数だからこそできることを考え、実践し、改善をしながらよりよい活動となるように取り組んでいってほしいと思います。